

鼓翼

はばたき

Vol

49

2016. 春号

041-8609 函館市神山1丁目4番12号

Tel (0138) 53-6111

Fax (0138) 55-3327

ホームページ <http://www.hnh.or.jp>

私たち職員は、生命を尊び、病院の理念を実践するとともに、患者さんの権利を尊重し、お互い協力し合い、信頼される医療を提供していきます。

～当院の理念～

- 私たちの病院は、「思いやりの心」を大切に、発症急性期より専門的治療の実践を目指します。
- 常に前向きに研鑽を深め、患者さんやご家族の方が満足できる安全で良質かつ高度な「チーム医療」を提供します。
- 地域の医療機関との「連携」を密にし、地域医療の向上に貢献します。

～患者さんの権利～

- 誰もが良質で最善の医療を受ける権利があります。
- プライバシーを尊重され、診療についての情報を得る権利があります。
- 選択と同意に基づいた医療を受ける権利があります。



Hokkaido Railway Company Series H5

1972年に整備計画が決定、建設指示された北海道新幹線。15年後には青函トンネルが完成。そして今年とうとう北海道新幹線が開業しました！

鼓翼（はばたき）第49号もくじ

☆入職者紹介 …2,3ページ

☆地域連携の実践 …3,4ページ

☆お知らせ …6ページ

☆湿布のお話し …7ページ

☆七飯、通所サービスを開始…8ページ



平成28年度 入職者紹介

職員のプライバシー保護のため削除しています

職員のプライバシー保護のため削除しています

脳卒中とは、ある日、ある時から突然、右の手足(あるいは左の手足)が動かなくなる病気で、一般家庭ではしばしば「あまった」と表現されているものです。



(図1)

一度発症してしまうと、後遺症を残し、障害者となってしまうことが多く、その脳卒中に対する診療のあり方は「**脳卒中治療ガイドライン**」によって示されています。このガイドラインは改定を重ねており、昨年2015年に3度目の改訂版「脳卒中治療ガイドライン2015」(図1)がでたところです。この最新のガイドラインで新たに追加された項目のひとつに「地域連携」があります。今回、「地域連携」について当院の取り組みをご紹介します。

「地域連携」はさらに4つの小項目で構成されております。(図2)まず、「1.脳卒中病院前救護(PSLS)/脳卒中初期診療(ISLS)」についてです。これは、脳卒中をいかに早く認識し、適切な医療機関に搬送し、搬送された医療機関で専門的な加療を開始する、という病院前から初期診療までのトレーニングコースです。対象としては、救急救命士(消防)、看護師、医師であり、当院を中心として道南各施設とも協力しながらここ3年間で約10回のコースを開催し、医師50名、看護師173名、救急救命士(消防)54名が受講しました(図3)。

地域連携

1. 市民啓発、脳卒中病院前救護(PSLS)/脳卒中初期診療(ISLS)
2. 遠隔医療システム(Telemedicine or TeleStroke, Teleradiology)
3. 病院間搬送 (Drip and Ship法、Drip, Ship and Retrieve法)
4. 地域連携パス

(図2)

函館ISLS/PSLSコース



(Immediate Stroke Life Support)
(Prehospital Stroke Life Support)

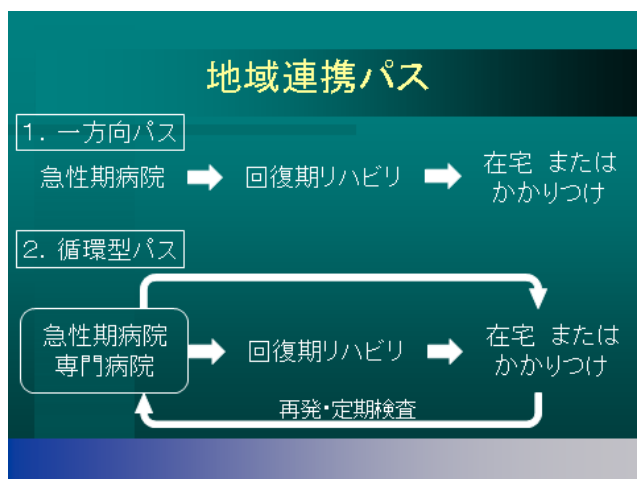
函館 ISLS/PSLSコース

(図3)

次に「2.遠隔医療システム」「3.病院間搬送」についてです。これは脳卒中診療医が不在の地域でも適切な脳卒中治療が受けられるようにしようという取り組みです。脳梗塞の発症から数時間以内にのみ使用可能なtPAと呼ばれる注射薬を投与できるように、遠隔地から画像診断を行い、tPAなどの薬剤を投与しながら、ドクターヘリなどを利用してその先の医療につなげられるように搬送する、このようなシステムを検討しているところです。

道南地域全体をみると、函館市以外では実質的に脳卒中診療を行うのは困難な状況であり、このようなガイドラインに基づくシステムの構築が必要です。

最後に、「4.地域連携パス」についてですが、上記のような急性期加療をおえて、さらなるリハビリテーションや再発予防策が必要な際に、連携パスを使用し、回復期リハビリテーションへの転院や、かかりつけ医への紹介が行えるようになっていきます。このような従来から使用されている連携パスは、急性期病院から回復期病院を経て、地元のかかりつけ医に一方向で連携していくものでした。近年はさらに、定期的な検査などの目的で、かかりつけ医から専門病院にまた戻したりといった循環型の連携パス「脳卒中あんしん連携ノート」が開発されています(図4、5)。当院ではこの「あんしんノート」を積極的に活用し、患者さんを中心として、急性期から回復期、維持期にわたって、地域連携を保てるようにしております。



(図4)



(図5)



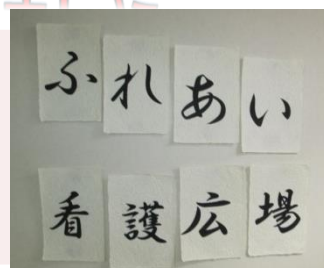
お知らせ

「新入オリエンテーション」が開催されました

4月1日に新入オリエンテーションが行われました。
看護部に14名、医療部に8名、事務部に4名、計26名の
新人が新たに仲間に加わりました。

「ふれあい看護広場」が開催されました

5月10日、11日にふれあい看護広場が開催されました。
血圧測定や健康相談、看護川柳コンテストやHAPPYBOOK
などが企画されたたくさんの皆様に来場していただきました。
看護川柳・HAPPYBOOKの最優秀、優秀作品を紹介します。



看護川柳最優秀作品

「ありがとう」 その言葉に 「ありがとう」

看護川柳優秀作品

WBC 野球じゃなくて 白血球

リハビリ後 飲めたらいいな 生ビール



HAPPYBOOK最優秀作品

「年の差 84 歳」



ちょっと知りたい 湿布のこと

平成28年度診療報酬改定により湿布は1処方につき70枚までと制限されました。肩こりや腰痛、足の捻挫に筋肉痛…痛いところに貼っていたら足りない！！という声も聞こえてきます。でも実際良く使うけど詳しくはわからない方も多いのでは…



湿布といっても白いのと茶色いのあるしあったかいものも冷たいものもあるけど何がきくのか…

「何を使えばいい？」「市販より病院の方が効く？」
「3時間位で効果がきれる？」などの疑問もたくさんあると思います。今回はそんな湿布のお話です。

まず湿布の効果として期待できるのが「**消炎鎮痛（炎症を抑え、痛みを鎮める）**」そして湿布の種類としては大きく2種類あります。

パップ剤

昔からあるスーッとする湿布
少し厚みがありグニュグニュしている
貼ったときに冷たい感じがする
肌に優しいがはがれやすい



例) MS冷シップ セルタッチ

使い方

打ち身、捻挫で患部が腫れている
急性症状の時に使われることが多い
冷感水分を多く含んでいるため。

パップ剤の中には温湿布もあります。カプサイシン等の成分で温かく感じます急性症状には向いていないので慢性的なものに使います。肌の弱い人は要注意！

利き目に関しては基本的には自分が
「**楽になる方！**」「**痛みが良くなった方！**」
を選んで大丈夫です！

プaster剤

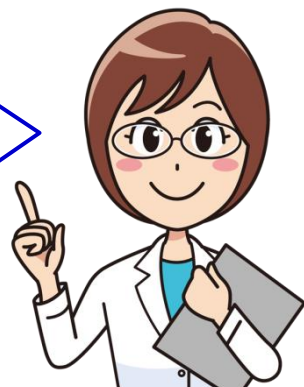
茶色くて薄い湿布
ピタッとくっつく
伸縮性があり接着剤配合のため
はがれにくいがかぶれやすい



例) モーラステープ ロキソニンテープ

使い方

肩こり、腰痛など以前からの痛み
急性症状が治まった後などに使用
することが多い。

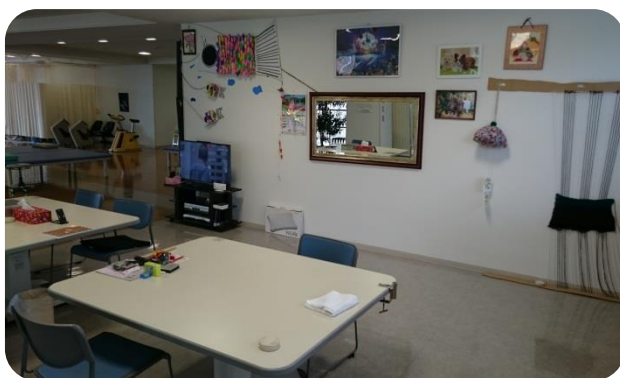


七飯クリニックでは平成28年3月1日より、介護保険制度による「短時間通所リハビリテーション」を開設致しました。



「短時間通所リハビリテーション」とは「デイケア」と呼ばれ、1日を施設内で過ごす「デイサービス（長時間）」や短い時間で機械などのトレーニングを中心に行う「デイサービス（短時間）」とは異なります

デイケアの内容は機械による筋力トレーニングなどに加え、リハビリ専門スタッフ（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）が専門性に基づいてリハビリを行います。当事業所には理学療法士（PT）2名、作業療法士（OT）1名、言語聴覚士（ST）1名が常勤で在籍しています。



理学療法は足のリハビリを中心に基本動作練習（起き上がる、立つ、座るなど）や歩行練習等を行います。

作業療法は手のリハビリを中心に日常関連動作練習（入浴や食事等）高次脳機能障害に対する訓練などを行います。

言語療法は言葉のリハビリを中心に嚥下訓練（飲み込み）や記憶などの訓練を行います。

また、手足の麻痺に対してIVES：アイビス（随意運動介助型電気刺激装置）を導入し、自分で動かそうとした際に起こる微弱な筋電を察知し、電気刺激を加え筋収縮を促すことで麻痺の回復を図る治療も行っています。

生活期における継続的かつ医学的根拠に基づくリハビリテーションの提供を行い、利用者様・ご家族とともに身体機能の維持向上、動作能力の向上、活動範囲の拡大を目指し取り組んでいきます。

